

骨盤領域への放射線治療における膀胱体積のばらつきが放射線治療計画におよぼす影響の検討

1. 研究の対象

2015 年 4 月～2026 年 3 月までに当院で放射線治療を受けられた方

2. 研究目的・方法

膀胱は伸縮する臓器であり、膀胱体積は日々の飲水量などによって大きく変化します。骨盤領域への放射線治療において、治療計画用 CT 撮影時と放射線治療時に膀胱体積が大きく異なる場合、腫瘍の位置が変位して十分な放射線量を投与できない可能性があります。また、膀胱や周囲消化管などへ照射される線量を正確に把握できない可能性があります。膀胱体積を一定にすることは骨盤領域への放射線治療において極めて重要であるため、本研究では膀胱体積のばらつきが放射線治療計画におよぼす影響の検討を行います。

コーンビーム CT・超音波測定装置などによって日々の膀胱体積を測定します。基準となる放射線治療計画 CT と治療時の膀胱体積を定量的に評価します。膀胱体積のばらつきが放射線治療計画におよぼす影響を線量体積ヒストグラムなどを解析することによって明らかにします。

研究予定期間： 倫理審査委員会承認後 ～ 西暦 2026 年 3 月 31 日

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：CT 画像、超音波画像、MR 画像など、放射線治療実施に必要であった情報

試料：なし

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

大阪国際がんセンター 放射線腫瘍科 大平新吾（研究責任者）

住所：〒541-8567 大阪府中央区大手前3-1-69

電話：06-6945-1181

様式第 1-4 (2018. 4. 1 版)

-----以上